

学校教育目標	かしこく やさしく たくましく 生き抜く子
目指す学校像	学ぶ喜びのある学校 人とのかかわり合いを大切に、地域とともに歩む信頼された学校 安心・安全で美しい学校
重点目標	1 学びに向かう姿勢、基礎学力の定着と向上 2 誰一人取り残されない多様な支援の充実 3 地域とのつながり強化 4 安心・安全な「学びの場」としての施設・設備、教育環境の整備 5 働き方改革と教職員としての資質向上

※重点目標は6つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	〈現状〉 ・学力調査では、学校全体としては全国、市平均を下回る結果であるが、少しずつ上昇傾向にある。 〈課題〉 ・基礎学力の定着、課題を把握し、問題を読みとる力に弱さが見られる。 ・ICT 機器活用の有用性が、児童、教職員共に実感できておらず、十分とはいえない。 ・学びに向かう力が低い傾向にある。	基礎学力の定着と向上に向けた授業改善	①学びの指標アンケートにおける課題の把握と授業改善。 ②学校課題研究の研修体制の確立、相互授業観察等による指導力向上に向けた取組実施(朝時間あゆみタイムの計画的な実施を含む)。	①学びの指標アンケートにおいて把握した課題を8割の教員が改善することができたか。 ②学校評価に係る教職員アンケートにおいて、関連項目肯定的評価95%以上となったか。(R7:93.8%)			
		デジタル学習 基盤を活用した個別最適な学びの推進	①ICTの活用よき、効果を実感できるような事例の周知や研修の実施。	①学校評価に係る教職員アンケート、児童アンケートにおいて、それぞれICT活用に関する項目肯定的評価90%以上となったか。(R7:83%、87%)			
2	〈現状〉 ・朝、教室に入れない、体調不良で登校できない等、児童が抱える困難さがより複雑化しており登校渋り傾向の児童が一定数いる。 〈課題〉 ・児童一人ひとりの的確な実態、状況把握と適切なタイミングでの組織的な支援・相談体制の更なる強化が課題である。	一人ひとりの心に寄り添った、積極的かつ丁寧な教育相談及び生徒指導の組織的展開	①情報端末を活用した児童の実態や面談記録等の情報蓄積とその継続的把握。 ②蓄積したデータをもとにした、児童の状況的確な把握と組織的な支援、相談。 ③基本的マナー(あいさつ、時間、言葉づかい等)の習得を含めた道徳授業や心の教育の実施。	③学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、生徒指導、教育相談の関連項目肯定的A評価60%以上となったか。(R7:52.4%) ②学校自己評価に係る児童アンケート、保護者アンケートにおいて関連項目肯定的A評価それぞれ70%以上となったか。(R7:66%、41%) ③学校自己評価に係る児童アンケート、保護者アンケートにおいて関連項目肯定的A評価それぞれ55%以上となったか。(R7:53.3%、41.6%)			
3	〈現状〉 ・年間3回の学校運営協議会を開催し、学校の現状、育てたい子ども像を共有しそれに向けて活動することができた。 ・学校日より、HPの更新は定期的に行い情報発信することができている。 ・地域行事への職員参加、合唱部の地域イベントへの出演など、地域とのつながりをもつことができています。 〈課題〉 ・地域の人材を含めた教育資源を活用しきれていない。 ・地域への更に積極的なかかわりができるとよい。	地域、保護者とともに歩む学校づくりの実現	①学校運営協議会において、目指す児童像や身につけさせたい資質・能力の共有と具体的な取組についての熟議。 ②地域の方々への自発的な挨拶、見守り等に対する感謝の気持ちの醸成、地域への貢献。 ③学校日より、HP等による本校の教育活動に関する適切な情報発信。	①学校運営協議会において、目指す児童像を共有しながら意見交換し連携を深め、具体的な取組を実施することができたか。 ②学校自己評価に係る児童アンケートにおいて関連項目肯定的評価が85%以上となったか。(R7:82%) ③学校自己評価に係る保護者アンケートにおいて連項目肯定的A評価が50%以上となったか。(R7:45%)			
		学校や地域行事等を通じてともに成長する機会の拡充	①未来くるふれ愛推進事業等における地域人材の活用と教育課程への位置づけ ②小中合同研修、保幼小連絡会、授業参観、交流等の実施。	①地域とのかかわりを積極的に教育課程に位置付けることができたか。 ②小中合同研修、保幼小連絡会、授業参観、交流等を計画的に実施することができたか。			
4	〈現状〉 ・定期的、日常的な安全点検を行い修繕対応することができている。 ・児童の安全に対する意識は高い。 〈課題〉 ・安全に対する意識は高いが、実際の自己防衛力には課題があり、実践力(ケガに合わない判断力や対応力)を身に付けられるような安全教育も必要である。	安心・安全な「学びの場」としての教育環境の整備	①より丁寧な安全点検と危険個所に対する迅速な対応。 ②児童の安全意識の継続と実践力の育成。定期的、日常的な安全教育の徹底。	①月に一度の安全点検と日々の点検により修繕箇所の確認を行い、即時対応することができたか。 ②学校自己評価に係る教職員アンケートにおいて、関連項目肯定的評価95%以上となったか。(R7:91.5%)			
		児童による安心・安全な美しい学校への取組	①児童会(計画、保健、環境、整備委員会等)の児童による活動の実施。	①児童自らが、安全・安心で美しい学校づくりに向け自主的・実践的な活動に取り組むことができたか。			
5	〈現状〉 ・業務改善につながるICTの活用研修やキャリア段階に応じた研修を重ねている。 ・ストレス、負担感を感じながら業務を遂行している職員が0ではない。 〈課題〉 ・教科担任制実施に伴う、担当教科についてのより深い教材研究と担当以外教科についての教材研究、良い授業のイメージ共有が課題である。 ・全教職員が、お互いを支え合いながら楽しく生き生きと働ける職場環境づくりが今後も大切である。	キャリア段階に応じた研修の推進	①各自が年間を通して取り組む授業改善の目標を設定。目標達成に向けた年2回以上の授業公開と教員同士の情報交換会の実施。	①すべての教員が自らの目標に向けて授業改善に取り組み、目標達成を実感することができたか。			
		「さいたま市立学校における働き方マスタープラン」に基づく働き方改革の推進	①時間外在校等時間の目標設定とそれを意識した働き方の推進。 ②ストレスチェックの実施と活用、日々の教職員の心身の健康管理。 ③業務分担など日常的なフォローアップ体制の強化。	①全教職員の時間外在校等時間(月平均)が45時間以内となったか。 ②ストレスチェックを確実に実施しその結果等を活用した職場改善を行ったか ③勤務に関する意識調査において協力体制関連項目肯定的評価95%以上となったか。(R7:92.2%)			

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

